

ぎんれいゆ会

平成三十年二月

寒明けや一筆箋に字が余り

主幸 細野恵久 福祉三期

旅カバンあれこれ詰めよ寒明け

増田和子 食文一期

内外とサツシの隙間虎落笛

改正節夫 国際三期

スキップの出来ぬ爺とて春来る

三枝邦光 美工五期

大寒の背山の市章灯るかな

國永靖子 音文六期

寒の水堅め旨しと蕎麦捏ねる

猿橋二三雄 福祉八期

冬ざれや歳に目が行く死亡記事

加藤善巳 美工八期

連風の如き人生喜寿を過ぐ

太田 實 国際十期

望遠鏡しかと小鴨をとらえたり

大下絹子 国際十五期

寒明やつると剥けし茹で卵

中村建生 国際十五期

霜柱崩して歩く小さき足

藤本武子 国際十五期

少年の日々近隣集い餅搗きし

山下 進 国際十五期

シベリアを語らぬ人や寒土用

許斐國照 食文十五期

母の世の海苔の匂ひや節分会

兼清久子 健福十七期

氷面鏡割つて童心掘り返

宮本公子 健福十七期

父逝くを寂し義姉言ふ寒明けめ

沖本元辺子 国際十七期

悴みてオカリナ小さく合奏す

香春早苗 国際十七期

回廊に響く杳音寒の明

仲田慎輔 国際十七期

山焼きの点火待つ空凜凜と

中村富美子 国際十七期

サムラなる凍て砂女体伏すごとし

宮本眞貴子 国際十七期

ほつぽつと蠟梅の黄や香を放つ

小栗恭子 健福十八期

枯蓮や矢戦のごと田に刺さる

潮江敏弘 健福十八期

亡き友が強く生きよと冬の星

野見山剛 健福十八期

画面には割け音高き御神渡り

大山吉春 国際十八期

酒蔵の湯気の香強し寒の明

今井義和 美工二十期

立春の釣り師繚のきらの中

尾崎育久 美工二十一期

とんど祭狛犬よそを向いてをり

黒木早苗 食文二十一期

輝の踵すらして草履はく

宮脇暁美 食文二十一期

第二百四十六回ぎんれい句会（二月九日開催）より